

# 株主通信

2017年11月 No.45

2017年度第1・第2四半期報告

(2017年4月～2017年9月)

Top Message 株主の皆様へ

業績ハイライト

ビジネスハイライト

三菱商事の経営人材

特集 持続可能な成長へ ～三菱商事グループの挑戦～

三菱ゆかりの地を訪ねて(清澄庭園)

三菱商事の社会貢献活動(DREAM AS ONE.)

## Top Message

株主の皆様へ

## 通期業績見通しを過去 最高益となる5,000億円に上方修正

## 業績

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

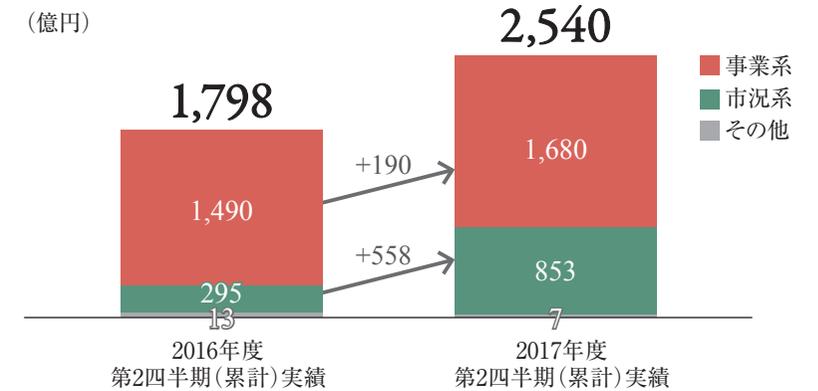
2017年度第2四半期連結決算、2017年度の通期業績見通し、および配当について、ご報告申し上げます。

2017年度第2四半期の三菱商事グループの連結純利益は2,540億円となり、前年同期比で742億円の増益、5月9日に公表しました通期業績見通し(連結純利益4,500億円)に対する進捗率は56%となりました。

事業系ではLNG関連事業やアジア自動車事業、鮭鱒養殖事業を中心に巡航利益(一過性損益を除いた利益)が前年同期比+350億円と着実に積み上がったことにより増益となりました。一方、市況系でも前年同期に計上したシェールガス事業再編に伴う一過性利益の反動があったものの、豪州石炭事業を中心に巡航利益が前年同期比+738億円となったことにより増益となりました。

「事業系」でしっかりと利益を積み上げつつ、「市況系」で市況の上昇を上手く取り込むことができ、当社の「総合力」を活かしたポートフォリオの強みが発揮された結果と捉えています。

## 連結純利益の推移



## 2017年度の通期業績見通し

事業系・市況系ともに巡航利益が順調に推移していることなどを踏まえ、2017年度通期業績見通しを過去最高益となる5,000億円(期初見通し比+500億円)に上方修正しました。

通期業績見通しが5,000億円台にのり、次の成長ステージに入りますが、引き続き資産入替によるポートフォリオ改革を進め、収益性を高めていきます。

## 配当

『中期経営戦略2018』では、株主還元については配当を基本とし、持続的な利益成長に合わせて増配していく累進配当を基本方針としております。

2017年度の年間配当につきましては、巡航利益が着実に積み上がっていることを踏まえ、期初見通しから15円増額し、1株当たり95円とする予定です。中間配当につきましては、この約半額に相当する47円(期初見通し比+7円)となります。

## 株主還元方針



# 社会のニーズに応え、 持続的成長を実現する企業グループ

三菱商事は、「三綱領」をグループ全体の企業理念として事業活動を行っています。三菱商事グループ1,200社の連結事業会社の力を結集することで、社会のニーズに応え、経済価値・環境価値・社会価値の三価値同時実現による持続的成長に挑戦します。



三菱商事には150を超えるビジネスユニットと1,200社の連結事業会社があり、これらを通じたグローバルに全産業へアクセスする力、すなわち、全産業を俯瞰する総合力を活かして、常に新たな事業機会に接していることが、当社の強みと考えています。

この総合力を堅持した上で、当社が主体的機能を発揮でき、普遍的な社会のニーズに応えることのできる分野に経営資源を集中的に投下することで、大きな収益の柱をいくつも育て、自らが意図した最適な事業ポートフォリオを構築していきます。

そのためには、事業の成長の芽を発掘する構想力と、成長を実現する実行力を有し、高い倫理

観を備えた経営人材を輩出していく必要があり、自己変革を繰り返し、より多くの経営人材を育成したいと思います。

また、現在は国際情勢の変化、経済環境の変化、技術革新による産業構造の変化、社会における価値観の変化など、外部環境の変化の激しい時代であり、変化の先取りも含めた対応力を三菱商事グループ全体で強化していきます。

今後とも、株主の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2017年11月  
代表取締役 社長

垣内 威彦



## 業績ハイライト (国際会計基準)

2017年度第2四半期  
(累計)業績当期  
純利益

2,540 億円

配当金

中間配当  
47 円

その他の指標・数字

収益

36,571 億円

総資産

159,692 億円

資本

52,417 億円

2017年度  
通期見通し当期  
純利益

5,000 億円

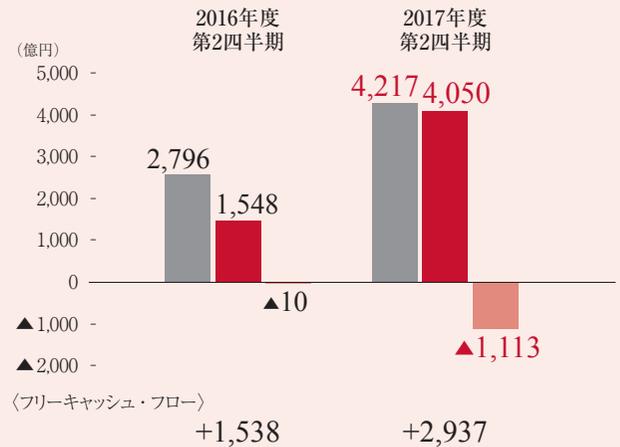
配当金

年間配当  
95 円

## 当期純利益



## キャッシュ・フロー



## 2017年度第2四半期投資キャッシュ・フローの内訳

## 主な新規投資

- ・ コンビニエンスストア事業 (生活産業グループ)
- ・ シェールガス事業 (エネルギー事業グループ)
- ・ 豪州石炭事業 (金属グループ)

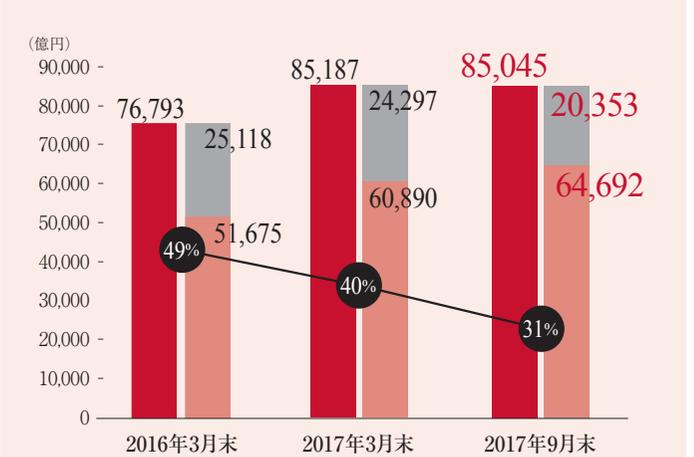
## 主な売却および回収

- ・ 上場有価証券 (エネルギー事業グループ)
- ・ 不動産関連事業 (新産業金融事業グループ)

## 配当金



## 投融資レバレッジ



## 投融資レバレッジ

財務健全性と資本配分の基礎指標として「投融資レバレッジ」を設定し、適正水準を25～35%とします。2017年度第2四半期末時点の投融資レバレッジは31%でしたが、今後の投資の進捗や利益剰余金の積み上がりに応じて変動する見込みです。

※1 「当期純利益」は、「非支配持分を除く、当社の所有者に帰属する当期純利益」を表しています。  
また、「資本」は、資本合計のうち、「非支配持分を除く、当社の所有者に帰属する持分」を表しています。

※2 営業収益キャッシュ・フローは、資産負債の増減の影響を控除した営業キャッシュ・フローです。  
(連結純利益 (非支配持分を含む) - 減価償却費 - 投資活動関連損益 - 未配当の持分法損益 - 貸倒費用等 - 繰延税金)

※3 投融資レバレッジとは、当社の投資残高に対する資本と有利子負債の関係を示したもので、  
上図「投資に見合う有利子負債」÷「資本 (含む格付資本)」 (%) で計算しています。

※4 資本 (含む格付資本) は、非支配持分を含む資本にハイブリッド社債・ローンによる調達額の50%を合算したものです。

# ビジネスハイライト

半期のニュースをお知らせします。



洋上変電所

## 英国で海底送電資産の運営事業権を取得

地球環境・インフラ事業グループ

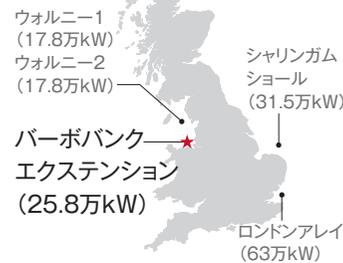
2017年7月、英国で5件目となる海底送電資産の運営事業権を在英國の当社100%子会社Diamond Transmission Corporation Limited (DTC)社を通じて取得しました。本件は、英国北西部沖合約25kmの洋上に位置するバーボバンクエクステンション洋上風力発電所(発電容量25.8万kW)と、北ウェールズ・デンビーシャー州に建設予定の変電所を結ぶものです。資産規模は約262億円で、2017年末をめどに操業を開始し、事業パートナーとともに20年にわたつ

て送電を行う予定です。今回の取得に伴い、三菱商事は欧州で9カ所、総送電距離約900km、総送電容量約435万kWの海底送電事業を運営することになります。

DTC社は、今後も海底送電資産のさらなる積み上げを目指すほか、陸上送電線事業、国際連系線事業などへの進出も検討しています。

三菱商事は、温室効果ガスの排出抑制につながる事業機会を通じ、経済面のみならず環境面や社会面への貢献を実現していきます。

英国で三菱商事が参画している海底送電事業



DTC社

欧州海底送電事業を担う統括会社として2013年に設立。資産の保守管理業務を担う専門チームを擁し、海底送電資産の運営に携わっています。

## バングラデシュ初の都市高速鉄道を受注

地球環境・インフラ事業グループ

2017年8月、バングラデシュで初めて建設される都市高速鉄道(MRT)向け車両144両と



ダッカMRT6号線車両のイメージ

車両基地設備を、川崎重工業と共同で総額約400億円で受注しました。三菱商事は、一部車両基地設備の供給と商務事項の管理を担当します。

今回受注したMRT6号線は、首都ダッカの中心地を南北に結ぶ全長約20km、16駅で構成する全線高架の路線です。ダッカでは、人口増加に伴う交通量の増大により、慢性的な渋滞が

社会問題になっています。本件は、道路交通からの交通手段の転換を促し、渋滞緩和による都市利便性の向上、経済損失の解消、さらに温室効果ガスの削減に資すると期待されています。今後も、同国での鉄道車両ビジネスを積極的に展開するなど開発途上国での鉄道整備を通じ、経済および社会の発展に貢献していきます。

## 農薬の登録・製造・販売のための合弁会社を設立

化学品グループ

2017年9月、三菱商事は全国農業協同組合連合会(JA全農)と農薬の登録・製造・販売を行う合弁会社の設立に合意しました。両社50%ずつ出資し、11月に新会社ZMクロッププロテクションを設立しました。2018年度からの営業開始を予定しています。

三菱商事では、拡大する食料・農業資材需要に応えるべく、

インドや中国における農薬の受託製造機能や国内外における販売事業に取り組んでいます。

新会社では、JA全農の強みである「研究開発機能」「登録機能※」と、三菱商事の強みである「製造機能」「海外ネットワーク」との相乗効果を発揮し、2021年をめどに100億円の事業規模を目指します。このスケールメリットを活かし、農薬価

格の低減を実現することで、日本の農業の競争力強化に貢献していきます。



※農薬を製造・販売・使用するための許認可を取得する機能。安全性や効果を実証するさまざまな試験データを整備するため、高い専門性が求められる。



産業用施設のイメージ

## 産業用施設の開発・大規模改修事業に参入 ～事業会社向けCREサポート～

### 新産業金融事業グループ

三菱商事と100%子会社の三菱商事都市開発は、事業会社が使用する産業用施設の開発・大規模改修事業に参入しました。千葉県内の冷凍冷蔵倉庫兼加工センターを主要用途とする産業用施設2件を取得し、大規模改修を行います。その総事業費は、テナントの設備投資も含め約100億円になります。本事業は、三菱商事として初の特定用途の産業用施設に対する大規模改修を含めた開発事業となり、不動産業界でもユニークな取り組みです。

昨今、ROA/ROEを重視する経営の浸透や、業界再編・経営合理化に伴う拠点再構築ニーズなどを背景に、企業が保有する不動産(CRE※)の有効活用戦略を

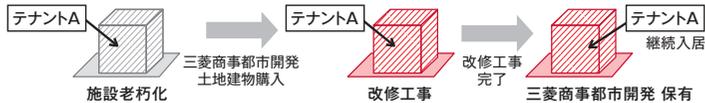
重視する動きが高まっています。三菱商事では、総合社ならではの広範な企業ネットワークを駆使し、CREのさまざまな課題に対する最適なソリューションの提供に積極的に取り組んできました。

今後もその強みを活かし、事業会社向けCREサポートを一つの柱として、不動産開発事業のさらなる拡大を図っていきます。

※CRE:Corporate Real Estate

### スキーム概要

第1号案件 (テナント継続入居)



第2号案件 (新規テナント向け改修)



	【第1号案件】	【第2号案件】
所在地	千葉県市川市	千葉県市川市
敷地面積	約17,300㎡	約3,300㎡
建屋延床面積	約27,600㎡	約5,100㎡
主要用途	冷凍冷蔵倉庫兼加工センター	冷凍冷蔵倉庫兼加工センター

## 豪州ウィートストーンLNGが生産開始

### エネルギー事業グループ

2017年10月、日本郵船、JERA、JOGMECとともに参画している豪州ウィートストーンLNGプロジェクトにおいて、LNG(液化天然ガス)の生産を開始しました。

今回の生産開始はLNG生産設備第1系列からのもので、西豪州北西部沖合のウィートストーンおよびイアゴガス田から産出される天然ガスが用いられています。現在、第2系列の建設

作業が進行中で、第2系列の完成後は両系列合計で年間890万トンのLNGが生産される予定です。

人口増加に伴う世界的なエネルギー消費量の増加傾向や、地球温暖化への対応として、クリーンなエネルギー資源である天然ガスの需要は世界的に高まっています。こうした中、本プロジェクトは日本にとって重要な供給源となるばかりでなく、官民

一体となったエネルギー資源の確保という点でも大きな意義があります。三菱商事は今後も引き続き、日本へのエネルギーの安定供給に貢献していきます。

### プロジェクトの位置図(豪州)



洋上プラットフォームの様子

## 三菱商事の経営人材

常に挑戦する  
姿勢を忘れない

三菱商事グループの  
企業価値向上を支える、  
経営者の奮闘ぶりを紹介します。



ダイヤモンド・リアルティ・マネジメント  
(DREAM) つじたかし  
代表取締役社長 **辻 貴史**

## 胸に刺さった社員のひと言

「挑戦が社員の成長を生み出し、それが会社の力になる」。こう語るのは、DREAM代表取締役社長の辻 貴史。ただ、2012年に社長に就任した時は、全く別の考えだったと明かします。辻の念頭にあったのは、歴代社長の路線を踏襲すること。好調な業績を維持するためには、既存の戦略に沿ったかじ取りが最善だと考えていたからです。

しかし、社員の思いは違いました。「辻さんがトップになり、会社がどんなふうになるのかワクワクしていたのに」。親睦会の席での若手社員の何気ないひと言が、胸に刺さりました。会社をさらなる成長軌道に乗せるための新社長のチャレンジに、多くの社員が期待を寄せていたのです。

「社長就任当初の考えは、自信がないことの裏返しだったか

もしれない」。自分が社長に就いた意味は何なのか、辻は改めて自らに問い掛けました。その時思い出したのは、物流ビジネスに打ち込んできたこれまでのキャリアでした。

三菱商事入社後、「物流業界に革命を起こすような仕事がしたい」という夢を抱き、米国で培った物流オペレーションやベンチャー投資ビジネスの経験を

活かして最新鋭の物流施設の開発・リースやテナント誘致にがむしゃらに取り組んだ日々は、辻にとってかけがえのない財産になっていました。

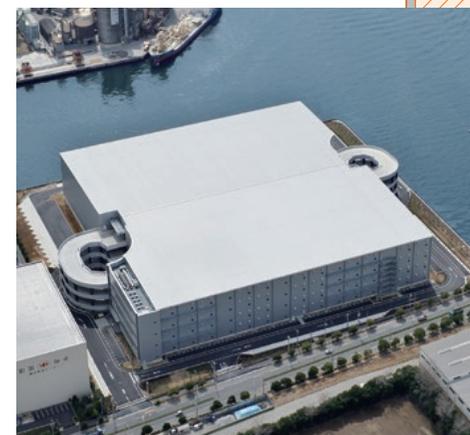
「社長になった今こそ自分のカラーを打ち出す時ではないか。これまでの経験や思いを活かし、DREAMならではの物流

ファンドビジネスを仕掛けて会社の活力にしよう」。辻はそう決心しました。結果として、業界で初めて私募REIT<sup>\*</sup>に物流施設を組み込むなど、商社系ならではの物流事業の知見を活用した金融商品を開発し、先行者利益の獲得と他社との差別化に成功しました。

## 挑戦が好循環を生み出す

「失敗を恐れず挑戦し、成功体験を日々積み上げることで社員には大きな自信となり、会社に一体感が生まれる」と辻。「三菱商事のリソースを使っていろいろなことにチャレンジできるという連結経営の醍醐味を、今では多くの社員が実感してくれている」と、

確かな手応えを感じています。また、業界に先駆けて新たな挑戦をし続けることで、好循環が生まれると辻はいいます。「挑戦できる場所には、優秀な人材が集まる。新たな知見が蓄積され、それが会社の力になる。大切なのは、この好循環をより確



DREAMのファンドが保有する  
大黒町物流センター

実なものにしていくこと」。辻はこう強調します。

今年の夏には、REITの本場である米国に初めて駐在員を派遣。海外でも次なる成長に向けた取組みは着実に進んでいます。DREAMの挑戦はこれからも続きます。



社内ボーリング大会の様子。人材の流動化が激しい業界だけに、社内コミュニケーションを大切にしている

※私募REIT：REITとは不動産投資信託のことで、多くの投資家から資金を集め、その資金を主に不動産への投資によって運用し、その結果得られた収益を投資家に分配します。私募REITは、REITのうち、私的な募集によって販売されるものを指します。

ダイヤモンド・リアルティ・マネジメント(DREAM)とは  
国内外の機関投資家向けに不動産私募ファンドの組成・運用事業を行う目的で2004年10月に設立。事業を拡大し、最大で5,000億円を超える資産を運用する規模にまで成長しています。

# 特集

## 持続可能な成長へ ～三菱商事グループの挑戦～

三菱商事は、持続可能な成長を実現する上で地球環境や社会が抱える課題への対応が重要であると考えています。今号の特集は、三菱商事グループの持続可能な成長に向けた考え方、および具体的な取組みについて紹介します。

### 持続可能な成長(サステナビリティ)の追求こそ企業活動そのもの

近年、「持続可能な開発目標(SDGs<sup>※</sup>)」や「パリ協定」採択の動きに代表されるように、地球温暖化や社会が抱える課題の重要性が加速度的に増す中、企業は持続可能な成長を続けていくためには中長期的な視点を持ち、それらの課題への対応を踏まえた経営にあたる必要があります。

三菱商事は、『中期経営戦略2018』において、持続的に成長するために事業を通じて経済価値だけでなく、環境価値・社会価値を同時に実現していく姿勢を

改めて示し、これら三価値を同時に実現するための経営上の重要な課題として、「サステナビリティ重要課題」(右ページ参照)を特定しています。

事業を通じてこれらの重要課題に対処・挑戦することで、社会に役立つ事業価値を創出し、持続可能な成長を追求していきます。また、重要課題への取組みを通じて、三菱商事はSDGsで

掲げられた目標の達成に向けて期待される役割を積極的に果たしていきます。



※2015年9月に開催された国連サミットにおいて、地球規模の課題として採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核を成す17個の国際開発目標。

#### 持続可能な調達・供給の実現

サプライチェーン上の環境面および強制労働や児童労働への対応といった社会性面のマネジメントが重要であると認識し、「サプライチェーンにおけるCSR行動ガイドライン」を策定し、視察も含めてその遵守状況を確認しています。



#### 低炭素社会への移行

発電事業において、2030年時点で再生可能エネルギー比率20%(発電量ベース)を目指します。



#### 地域課題への対応と解決策の提供

ヤンゴン近郊のティラワで、工業団地を開発し、現地の雇用創出、産業基盤の発展に貢献しています。



#### 次世代ビジネスを通じた社会課題の解決

シリコンバレーに拠点を置き、環境、ヘルスケアなどの最先端ビジネス開発を推進しています。



#### 地域・コミュニティとの共生

サウジアラビアで技術教育・訓練を支援し、若年層の雇用拡大に寄与しています。



#### 魅力ある職場の実現

経営能力の高い人材の育成に向けて、多様な人材が価値観を共有し、切磋琢磨しながら成長できる機会・職場の実現に取り組んでいます。



#### 自然環境の保全

マレーシア、ブラジル、ケニア、インドネシアで熱帯林再生実験プロジェクトを実施しています。



## 持続可能な養殖事業で持続可能な成長を目指すCermaq

三菱商事グループのひとつで、世界第3位のサーモン養殖加工会社Cermaq(セルマック)は、持続可能な養殖事業とさまざまなステークホルダーとの協業を通じて、安全な食の供給のみならず、海洋資源の保護、地域の雇用促進などに積極的に取り組んでいます。

2016年には、経営目標に

SDGsを取り込み、世界が抱える課題解決への貢献を目指して、新たな一歩を踏み出しました。セルマックは、SDGs実現に向けた取り組みが評価され、欧州のコン



サルティング企業から「SDG14: 海の豊かさを守ろう」の代表企業に選出され、その活動レポート“Future of Spaceship”は国連に提出されました。

※17の目標それぞれについて、世界各国の企業の中から代表企業が選ばれています。

セルマックでは、海の豊かさを守るために、以下の3つの視点で経営に取り組んでいます。

### 生物多様性の保全

生物多様性および天然資源の保護を目的に、養殖を行っている海域において、IUCN(国際自然保護連合)が作成した絶滅の危機にある野生生物のレッドリストを参照し、海洋生態系への影響を常にモニタリングし、その結果を、自社のウェブサイトを通じて、定期的に報告しています。



### サプライチェーンの強化



サステナブルで安全・安心な養殖サーモンを安定的に供給するために、重要となるのが「飼料」です。セルマックでは海洋資源への影響を軽減するべく、穀物由来の原材料比率の高い飼料を使用しています。また、飼料サプライチェーンのリスクを管理するため、トレーサビリティを確保し、漁業規制を遵守して漁獲された海洋資源を原材料としている飼料供給業者から飼料を調達しています。

### パートナーシップの促進

関係会社と協力し、サプライチェーンにおける違法行為の排除に努め、養殖業界の透明性の確保と持続可能な取組みを推進しています。最たる例として、2016年に設立された“Seafood Industry for Ocean Stewardship”に参画することで、世界を代表する複数の養殖サーモン事業会社と連携し、サステナブルでヘルシーな食料供給という共通の目標実現に向けた、情報・ノウハウの共有に力を入れています。



三菱商事は、『中期経営戦略2018』において掲げた三価値の同時実現に向け、セルマックなどの先進的な取組みを行っているグループ企業とも連携しながら、グループ丸となってサステナビリティ経営に取り組んでいきます。



# 清澄庭園 (きよすみていえん)

～岩崎家三代が築いた名石の庭～

**大泉水**  
三つの中島を配した広い池。水面に島や数寄屋造りの建物、樹々の影を映し出すこの池は、庭園の要です。現在は雨水で賄っています。

清澄庭園は、広大な敷地に全国から集められた巨岩、巨木、庭木が配された、明治を代表する回遊式林泉庭園です。名石を配した池を巡ると、四季折々の表情が楽しめます。11月中旬～12月上旬が紅葉の見頃であり、ぜひ足をお運びください。



東京都江東区清澄2-3丁目  
開園時間 / 9:00～17:00 (入園は16:30まで)  
入園料 / 一般150円、65歳以上70円、小学生以下および都内在住・在学の中学生は無料  
休園日 / 12月29日～1月1日  
アクセス / 都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線  
清澄白河駅より徒歩3分



## 清澄庭園の歴史と見どころ

### 彌太郎の時代



**名石**  
岩崎家が自社の汽船を用いて全国の産地から集めた石が園内に無数に配置され、さながら「石庭」の観を呈しています。

三菱の創業者・岩崎彌太郎には、庭園造りの趣味がありました。「心配事や悩みがあれば、庭園を見に行く。そうすれば、心持ちは爽快になり、暗い気持ちは晴れる。他に特別な趣味もないが、これが唯一の趣味だ」。1878年、彌太郎は深川にあった大名屋敷跡を買い入れ、修復を始めます。隅田川から水を引

き、三菱の船で取り寄せた石を使って海浜の景色を作った回遊式林泉庭園。これが今の清澄庭園です。当時は料亭での接待が一般的でしたが、彌太郎は欧米の社交習慣に倣い、賓客を接待する場として庭園を利用しました。

### 彌之助・久彌の時代

彌太郎の遺志を継いだ三菱二代社長彌之助、三代社長久彌によって造園工事はさらに進められ、1909年には、英国陸軍元帥の来日を歓迎するために小亭を建てます。もてなしを受けた元帥は、日本式庭園に感動してやまなかったといひます。

1923年の関東大震災では、近隣住民の避難場所としての役割を果たし、多くの人命を救助。その後、庭園の防災機能を重視した久彌は、庭園を当時の東京市に寄付しました。現在は、東京都の名勝に指定され、多くの来園者の目を楽しませています。



**涼亭**  
国賓として来日した英国元帥をもてなすために作られた小亭。池に突き出るようにして建てられた数寄屋造りの建物で、庭園を日本情緒豊かなものにしていきます。

涼亭で過ごす、優雅なひとときはいかがでしょうか？

涼亭は、集会場としての貸し切り利用やお食事の注文が可能です。予約方法などの詳細は、HPをご確認ください。

写真は清澄御膳



## 三菱商事の社会貢献活動

## DREAM AS ONE.

～ともに一つになり、夢に向かって～

2014年に三菱商事が立ち上げた障がい者スポーツ応援プロジェクトDREAM AS ONE.。今号では、その活動の一環として行っている「かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンかすみがうら大会」(茨城県土浦市)における伴走ボランティアへの取組みを紹介します。



本大会は国際パラリンピック委員会(通称:IPC\*)公認の国際盲人マラソン大会であり、三菱商事は2015年から本大会のオフィシャルパートナーを務めています。2017年大会では、

視覚障がいのあるランナーと並走し道先案内を行う伴走ボランティアがフルマラソンの部に1名、5kmマラソンの部に3名出場し全員完走したほか、体調を崩したランナーを救護する救

護ボランティアランナー、給水所の運営ボランティアとして約30名が参加するなど、多くの当社社員が大会を支えました。

※IPC: International Paralympic Committee

## 熱い絆で思いを一つに、ゴールを目指す

ロープで結ばれた熱い絆。障がいのあるランナーと伴走ボランティアは「きずな」と呼ばれるロープを手に持ってつながり、ともにゴールを目指します。ランナーにとって見知らぬ道を走るのは不安で、伴走者との信頼関係なくして完走することはできません。伴走ボランティアには、コースを完走する体力はもちろん、ランナーと思いを一つにするためのきめ細かな配慮が求められます。三菱商事では、伴走ボランティアの認知向上や伴走者育成を目的に、当社社員に向けて「伴走ボランティアセミナー

&体験会」を毎年開催し、三菱商事所属の視覚障がいランナー高橋勇市選手から視覚障がいマラソンのレクチャーや伴走者へのアドバイスを受けながら、実際にアイマスクを着けて伴走を体験しています。

視覚障がいランナーにとって、自身が走りたときにともに走れる伴走者が不足している状況の中、一人でも多くの人にスポーツの楽しさ、感動を味わってもらえるよう、今後もさまざまな面から障がい者スポーツを応援していきます。



三菱商事  
村上啓二職員

伴走ボランティア  
interview

伴走は、周辺状況や路面状況を的確に伝え、視覚に障がいがあるランナーの心情や体調を常に把握する能力が求められます。このため、本番前にペアランナーと練習や食事などを重ね、コミュニケーションを深めるようにしています。ペアランナーとの伴走は、一体感を持ってともにゴールする喜びを共有でき、2倍の感動が味わえます。伴走ボランティアを通じて、一人でも多くの方々にスポーツをする喜びや、マラソンを完走することの感動を味わってほしいと思います。

## 会社情報

### コーポレートデータ (2017年9月30日現在)

社名	三菱商事株式会社
創立	1954年7月1日(設立1950年4月1日)
資本金	204,446,667,326円
本店登記地	三菱商事ビルディング 東京都千代田区丸の内二丁目3番1号
従業員数	連結77,164名、単体 5,217名 ※2017年3月31日時点の就業人員数を記載しています。
連結対象会社数	1,279社

### 取締役および監査役 (2017年9月30日現在)

取締役会長 小林 健	取締役(社外) 今野 秀洋
*取締役社長 垣内 威彦	取締役(社外) 西山 昭彦 (一橋大学特任教授)
*取締役副社長執行役員 田邊 栄一	取締役(社外) 大宮 英明 (三菱重工業(株)取締役会長)
*取締役常務執行役員 廣田 康人	取締役(社外) 岡 俊子 ((株)岡&カンパニー 代表取締役)
*取締役常務執行役員 増 一行	取締役(社外) 齋木 昭隆
取締役常務執行役員 戸出 巖	常任監査役(常勤) 鍋島 英幸
取締役常務執行役員 村越 晃	監査役(常勤) 木崎 博
*取締役常務執行役員 榊田 雅和	監査役(社外) 國廣 正 (国広総合法律事務所 弁護士)

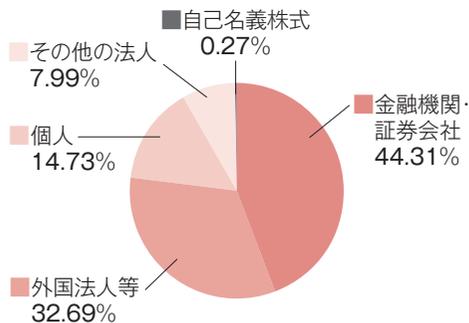
※\*は代表取締役を示しています。  
※すべての社外取締役および社外監査役を、(株)東京証券取引所など、国内の金融商品取引所が定める独立役員として指定しています。

### 株式等の状況 (2017年9月30日現在)

#### 株式数および株主数

発行可能株式総数	25億株
発行済株式総数	1,590,076,851株
株主数	237,646名

#### 株主構成(所有者別の割合)



三菱商事の事業活動や環境・CSR、投資家情報、最新の統合報告書など詳しくはウェブサイトをご参照ください。  
<http://www.mitsubishicorp.com>

## 株主メモ

証券コード	8058
上場証券取引所	東京、名古屋
単元株式数	100株
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
公告方法	電子公告

ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、官報に掲載します。

〈公告掲載アドレス〉<http://www.mitsubishicorp.com>

株主名簿管理人・特別口座管理機関  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
(連絡先)〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
0120-232-711(通話料無料)  
(郵送先)〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

※住所変更等の各種お手続きについては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。  
※支払開始日から満3年を経過していない未受領の配当金、および特別口座に記録された株式に関するお手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

### マイナンバー制度に関するお手続きについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きが必要となります。このため、株主様から、お取引のある証券会社等へ、以下のとおりマイナンバーを届出いただく必要があります。

#### ●株式関係事務におけるマイナンバーの利用目的

法令に定められたとおり、支払調書に株主様のマイナンバーを記載し、税務署に提出いたします。

#### ●マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

##### 証券会社の口座で株式を管理されている株主様

お取引の証券会社までお問い合わせください。

##### 証券会社とのお取引がない株主様

下記フリーダイヤルまでお問い合わせください。  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
0120-232-711(通話料無料)

#### 今号の表紙

##### サーモンの養殖場(ノルウェー)

三菱商事の100%子会社であるCermaq Group AS(セルマック)では、「持続可能な水産養殖」をコンセプトに、サーモンの養殖・加工・販売事業を行っています(セルマックの詳細については、P16~17ご参照)。

2011年度よりスタートした株主の皆様とともに推進する地球環境の保全・改善活動『株主の皆様と共に育む豊かな森づくり』。  
「株主総会招集ご通知」や「株主通信」など、株主の皆様へ紙で郵送している資料をEメールでお送りすることにご賛同いただきますと、株主一人様につき半期に1本、マレーシアで植樹を行います。2017年度上半期は、1万9,336名の皆様にご協力いただき、これまでに累計29万7,640本の植樹が実現しました。

※詳しくはHPをご覧ください。 [三菱商事 森づくり](#) [検索](#)

# 静嘉堂文庫美術館の展覧会

## あこがれの明清絵画

～日本が愛した中国絵画の名品たち～

2017年10月28日(土)～12月17日(日)



しんなんびん ろうほしゅうようず  
沈南蘋「老園秋容圖」  
清時代・雍正9年(1731)



よそう  
余松「百花図巻」(部分図)  
清時代・乾隆60年(1795)



りしたつ  
重要文化財 李士達「秋景山水図」  
明時代・万曆46年(1618)

静嘉堂の中国・明清絵画コレクションは、質量ともに国内有数のコレクションとして知られています。深遠な山水図から愛らしい猫まで多様な様相を見せる明清時代(1368～1912)の作品は、江戸時代以降の日本でも多くの画家たちの憧れの的でした。本展では、李士達・張瑞図・王建章といった明末清初の優品、また伊藤若冲や円山応挙をはじめ日本の画家に多大な影響を与えた沈南蘋の代表作など、日本が愛した中国絵画の名品を精選し展示いたします。

### 【泉屋博古館分館との連携企画】

本展は泉屋博古館分館にて開催の「特別展 典雅と奇想—明末清初の中国名画展」(11月3日～12月10日)との連携企画。各種関連イベントも企画しています。

## 歌川国貞展

～錦絵に見る江戸の粋な仲間たち～

2018年1月20日(土)～3月25日(日)

※会期中、作品の展示替えを行います。[前期] 2月25日(日)まで [後期] 2月27日(火)から



ほくこくごしきずみ おいらん  
「北国五色墨(花魁)」  
江戸・文化12年(1815)  
(前期展示)



にのみだんじょう ぎ えもんおのり  
「仁木弾正左衛門直則  
ごだいめまつごころしろう  
五代目松本幸四郎  
しゅうやていさんしゅうのちんこんこう  
秋野亭錦升 後 錦紅」  
江戸・文久3年(1863)  
(前期展示)

「錦のように美しい」と称され、江戸時代の庶民を熱狂させた多色摺木版画「錦絵」。錦絵はまた、現代におけるテレビや広告、ファッション雑誌のような役目も担っていました。江戸時代後期を代表する浮世絵師、歌川国貞(1786～1864、三代歌川豊国)は、特に美人画と役者絵の名手として知られています。本展では、生き生きとした江戸の女性たちや、迫力ある歌舞伎役者の舞台姿などを、鮮やかな色彩とともにお楽しみください。また、彫師・摺師の超絶技巧も見どころの一つです。慌ただしい日常を離れ、しばし江戸の街で遊んでみませんか。

今後の展覧会の予定 酒器の美に酔う 2018年4月24日(火)～6月17日(日)

静嘉堂文庫美術館のご案内

- 住所 東京都世田谷区岡本2-23-1  
TEL 03-5777-8600(ハローダイヤル)  
入館料 一般1,000円・大高生700円(20名以上団体割引あり)、中学生以下無料  
アクセス 二子玉川駅バスターミナル④番から「玉31・32系統」で「静嘉堂文庫」下車徒歩約5分、または二子玉川駅からタクシーで約10分  
開館時間 午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)  
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館し翌火曜日休館)ただし、展示替作業のため、臨時に休館することがありますので、詳しくはホームページをご覧ください。  
URL <http://www.seikado.or.jp/>

